

抄

Faint vertical text, possibly bleed-through or very light ink.

縁起

十月九日 松島 大の五百文は 金吉松村中込部

後松田堂法定と伝部ととて西本寺に納められたり

と申されし、交際財をその用とて西本寺に納められたり

半十口には約六百文に達し、平威運助と行ひて其勢

と申す、本部に在りて其勢に定めて其の勢を申す 青木雲一外郎三十五文 松山寺

跡形に引り余見とおめたり、松山寺なるは、在りて其勢に 五に

御田代としとの交際は、諫め申すと拒絶せられたり、幸い御田代十

文の御田代と共計、十口 石川唐路御田代と余見申現の如く

御田代を提出したるが、御田代は十口あり、十口御田代を提出したる